

マダラは近場で大きくなる -1歳標識放流魚の再捕結果から-

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-06-03
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 手塚, 信弘
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2006435

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



マダラは近場で大きくなる — 1歳標識放流魚の再捕結果から —

能登島栽培漁業センター 手塚信弘

はじめに

マダラ *Gadus macrocephalus* は冷水系の底棲性魚類で、北部日本の重要な漁獲対象種となっている。日本海北部の漁獲量は、1990年まで2,000～5,000tであったが、それ以降1,000～3,000tに減少している。石川県は、1990年までは北部日本海の漁獲量の30～50%を占めていたが、それ以降、10%以下に低下している。この様な状況の中、種苗放流を中心とした栽培漁業によるマダラ資源増大への期待が高まっており、能登島栽培漁業センターでは能登島の北側に位置する七尾北湾をフィールドとして、1985年から、標識魚の放流試験を実施

標識マダラの再捕報告のお願い!

全長 20cm のマダラに **ループタグ** をつけて放流しました。

ループには右のようなディスクを付けています。

ディスクの色 場所(月/日) 尾数

黄	東部(1/25)	5,400 尾
白	清川(1/19)	5,400 尾
赤	永見(2/14)	5,400 尾
番号付き黄色ループ	能登島(2/1)	1,000 尾

昨年まで、アンカータグや刻印の通うディスクタグを付けたマダラを放流してきました。標識が付いていたら、どんなものでも教えて下さい。

放流魚が捕れた時は、再捕年月日、標識の種類(ディスクの有無と色)、標識の番号(黄色いループタグの場合)、場所、水深、漁具、大きさ(全長、体重)、氏名、連絡先を教えてください。

※ 記念品を送らせて頂きます。
※ 標識を送って下さると助かります。

連絡先:
富山県水産試験場 担当:堀田 和夫
TEL: (076) 475-0036 aiminshiken@pref.toyama.lg.jp
FAX: (076) 475-8116 〒936-0036 富山県富山14-1064
(独)水産総合研究センター 能登島栽培漁業センター 担当:手塚 信弘
TEL: (0767) 84-1182 nishizuka@naaffn.go.jp
FAX: (0767) 84-1184 〒936-0236 石川県七尾市能登島町 15-1-1

図1 標識マダラを放流した際に作成したポスター

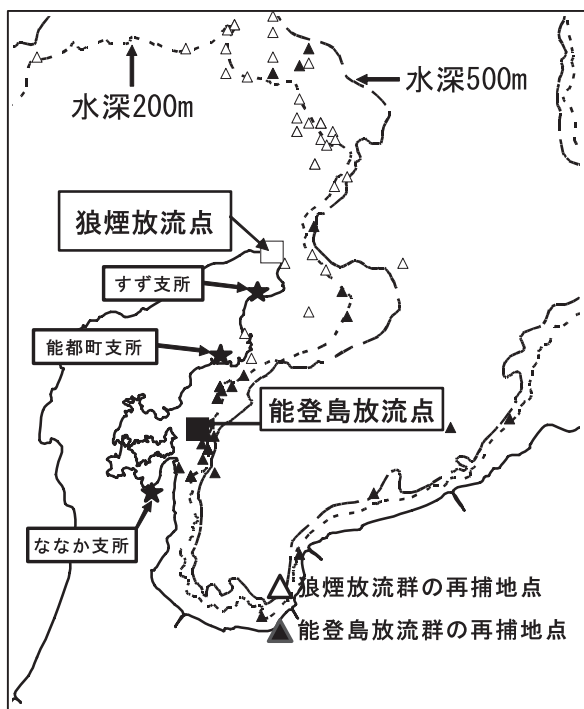


図2 1歳放流魚の再捕地点

してきた。種苗放流の効果を把握するためには放流魚の移動範囲と成長等の情報が必要となる。今回は、人工1歳魚を能登島周辺海域に標識放流し、その再捕報告から得られた情報を紹介する。

放流魚の移動範囲

2001年3月にループタグを装着した1歳魚(平均全長28.6cm)を、能登島沖と能登半島北端の狼煙沖で約550尾ずつ放流した(図1)。放流魚は、2006年12月までに、能登島放流群73尾、狼煙放流群55尾、放流場所不明4尾の計132尾が再捕され、再捕率は12.1%であった。放流魚の多くは、能登半島北側沖から東岸の水深200～300mで再捕され、放流魚の移動範囲は比較的狭いと考えられた(図2)。能登島放流群の再捕報告の86%は、石川県漁協のななか、能都町、すずの三つの支所の漁業者からであった。従って、能登島沖を放流場所とした場合、これら三つの支所で調査を実施すれ



図3 放流の3年後に体重3.8Kgで再捕された4歳魚

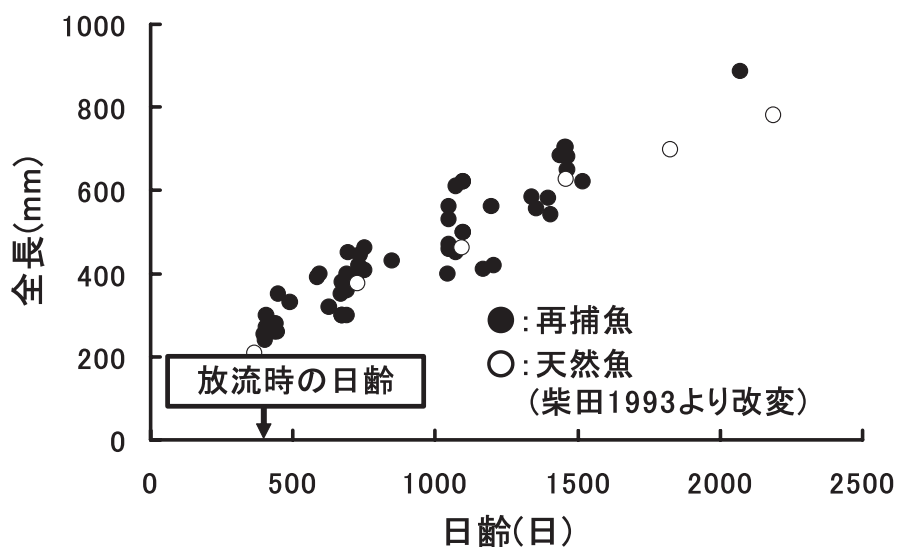


図4 再捕時の日齢と全長の関係

ば、効率的な調査が可能ながことが判明した。

放流魚の成長

再捕魚の平均全長は、2歳で38cm、3歳で46cm、4歳で62cmであった(図3)。一方、青森県および秋田県沖合で漁獲された天然2、3、4歳魚の平均全長はそれぞれ、34cm、42cm、57cmで(柴田 1994)、放流魚の成長は天然魚とほぼ同等と考えられた(図4)。また、マダラの雄は2歳で、雌は4歳で成熟するとされているが、再捕時

の年齢、全長から、放流魚も産卵に参与していると考えられ、人工種苗による再生産効果も期待できることになる。

【引用文献】

柴田 理, 1993: 地先資源漁場形成要因研究事業(マダラの生態と資源に関する研究). 平成5年秋田県水産振興センター事業報告書, 103-110.